

2023 年度(令和 5 年度)
事業報告書

学校法人 新島学園

目次

1. 学校法人の概要	
(1) 学園の建学の精神と教育理念	2
(2) 学校法人の沿革	2
(3) 設置する学校・学科	3
(4) 学校・学科の生徒・学生数の状況	3
(5) 役員の概要	3
(6) 評議員の概要	4
(7) 教職員の概要	4
2. 事業の概要(2023年度 事業報告)	
(1) 法人本部	5
(2) 短期大学	6
(3) 中学校・高等学校	7

1 学校法人の概要

(1) 新島学園の建学の精神と教育理念

① 建学の精神

新島学園の名前は新島襄に由来し、「新島襄先生の人格をきん慕し、その遺風を顕彰しキリスト教精神を基本とする徳育を施し、品性高潔な国家社会に有用の人材を育成する」こととしている。

担う使命として、新島襄先生の教育理念に基づき「一国の良心ともいうべき人物を育てる」を掲げ、また、「一年の計には穀を植え、十年の計には木を植え、百年の計にはすべからく人材を養え」との創設者の想いを基としている。

② 教育理念

・中学校・高等学校「教育5原則」

- 1) キリスト教精神を教育の基とする
- 2) 一人ひとりの生徒を愛し、その人格を重んずる
- 3) 知識水準を高くし、勉学の喜びを教える
- 4) 勤労を尊び、天然資源の利用を学ぶ
- 5) 己を知り、国を愛し、隣人に仕え、世界を友とする心を養う

・短期大学「教育モットー」

- 1) 真理：自分の使命を探求すること
- 2) 正義：信念に基づいた行動力を持つこと
- 3) 平和：相手の価値観、感情を尊重すること

(2) 学校法人の沿革

1947年5月 新島学園中学校(男子校)開校

1948年4月 学制改革により、新島学園高等学校並びに附属中学校に移行

1951年3月 学校法人に組織変更し、新島学園高等学校高等学部・同中学部に名称変更

1968年4月 高等学部・中学部を男女共学とする

1971年3月 新島学園高等学校、新島学園中学校に改める

1983年4月 新島学園女子短期大学国際文化学科開学

1986年4月 新島学園法人本部設置

2002年4月 高等学校、中学校を併設型に改組

2004年4月 新島学園女子短期大学を新島学園短期大学に名称変更し、男女共学とする

国際文化学科を募集停止し、保育学科及びキャリアデザイン学科を設置

2006年4月 短期大学保育学科をコミュニティ子ども学科に名称変更

(3) 設置する学校・学科

設置する学校	開校年月	学科	摘要
新島学園短期大学	1983年4月	キャリアデザイン学科	2004年改組
		コミュニティ子ども学科	2004年改組
新島学園高等学校	1948年4月	普通科	
新島学園中学校	1947年5月		

(4) 学校・学科の生徒・学生数の状況 (2024年5月1日現在)(単位:人)

学校名	入学定員	収容定員数	現員	摘要	
新島学園短期大学	キャリアデザイン学科	130	260	166	
	コミュニティ子ども学科	50	100	85	
新島学園高等学校	200	600	675		
新島学園中学校	170	570	471	2024年度より入学定員を170名に変更	

(5) 役員の概要

(2024年5月25日現在)

定数 理事12人以内、監事2人

区分	氏名	常勤・非常勤の別	就任	再任	選任区分
理事長	湯浅康毅	常勤	2008年4月1日	2021年4月1日	学識経験者
理事	岩田雅明	常勤	2015年4月1日	2023年4月1日	短期大学学長
理事	小栗仁志	常勤	2023年4月1日		中学校高等学校校長
理事	八田祥孝	常勤	2015年4月1日	2021年4月1日	学識経験者
理事	月本昭男	非常勤	2000年9月30日	2021年4月1日	学識経験者
理事	横山慶一	非常勤	2017年4月1日	2021年4月1日	学識経験者
理事	本井康博	非常勤	2021年4月1日		学識経験者
理事	増田貴治	非常勤	2021年4月1日		学識経験者
理事	原誠	非常勤	2021年4月1日		学識経験者
理事	朝日研一朗	非常勤	2023年4月1日		学識経験者
理事	静朋人	非常勤	2021年5月29日	2023年5月27日	評議員選出
監事	小瀧秀夫	非常勤	2019年4月1日	2020年9月30日	
監事	松村丈生	非常勤	2020年9月30日		

(6) 評議員の概要

(2024年5月25日現在)

定数 25 人以内

氏名	選任区分	氏名	選任区分
成田小百合	法人職員	小林士郎	学識経験者
石井俊明	法人職員	小堀良夫	学識経験者
酒井裕之	保護者	澤浦彰治	学識経験者
櫻井雅寿	保護者	武井弘子	学識経験者
爲谷貴士	保護者	富田全子	学識経験者
静朋人	卒業生	南都隆道	学識経験者
下城郁雄	卒業生	半田充	学識経験者
関千景	卒業生	藤口光紀	学識経験者
田中美香	卒業生	細谷可祝	学識経験者
湯川嘉昭	卒業生	丸岡えみ	学識経験者
天田清之助	学識経験者	三宅豊	学識経験者
有馬平吉	学識経験者		
荒川朋子	学識経験者		

(7) 教職員の概要

(2024年5月1日現在)(単位:人)

区分		短期大学	高等学校	中学校	本部	合計
教員	本務	17	37	27	0	81
	非常勤	48	13	10	0	71
職員	本務	16	7	5	4	32
	兼務	5	1	1	0	7
合計		86	58	43	4	191

2023年度事業報告(法人本部)

No.	活動計画	No.	施策	2023年度の取組状況
①	「建学の精神」推進(伝統を守る)	1	「新島慕の精神/キリスト教を学ぶ」機会の増加(学生生徒、教職員、保護者、理事/監事/評議員)	・新任教職員への辞令交付式に付随し、安中教会・朝日牧師による礼拝及び湯浅理事長による「建学の精神」の学びを得る。
		2	新島文化研究所活動の推進	・新島文化研究所定例報告会の参加 ・「上毛教会月報を読む会」への参加
		3	短大40周年記念事業の推進支援	
		4	学園関係者・地域連携の更なる関係構築(PTA、父母の会、同窓会、後援会、地域教会、地域企業・団体、地元自治体など)	・各地区根柢会への出席 ・同志社社史資料センターとの新島研究会参加 ・理事長によるICU訪問 ・安中教会「ふ・せ・ぐ・まろるセミナー」支援
		5	新島慕ゆかりの地/関係者(米国東部、京都、熊本、東北、函館など)との連携強化	・安中市と学校法人同志社との包括連携協定に関する協力支援
		6	新島学園ブランドの管理強化	・中高駐車場のサイン制作/設置 ・「慕出来」商標登録に向けた取り組み
②	「No Place like Nijijima」推進(伝統を活かす)	1	「いのちの教育」の具体的な取組み開始(ハラスメント研修、防災訓練など含む)	・新島学園ファーム体験(新中1生) ・庶務ウォーク参加 ・ハラスメント研修の早期実施
		2	中高「相互コミュニケーション能力」強化支援	
		3	短大「エンrollmentマネジメント」推進の支援	
		4	透明性の高い会議体(理事会、評議員会、会計監査報告会、監事意見交換会など)運営	・理事会/評議員会/会計監査報告/監事意見交換会の円滑な運営
		5	働き方改革の推進・強化	・中高「働き方改革委員会」、「部活動改革委員会」への支援
		6	教職員の意識改革・行動改革(すぐやる、いつにまでやる、やったらレビューし改善する)の推進	
		7	計画的な広報活動実施(情報発信:HP・SNS活用、学校訪問、オープンキャンパス・オープンスクール)	
		8	キャンパス・グラウンドデザインの推進(施設等に関する長期修繕計画の立案・運営)	・中高施設整備の確認(第2グラウンド/テニスコート修繕等) ・短大施設整備(建物検査)の検討
③	「構造改革プロジェクト」推進	1	中高構造改革プロジェクトの支援	
		2	短大構造改革プロジェクトの支援	・新学科構想に関する、情報収集の取り組み支援
		3	<ul style="list-style-type: none"> ・法人本部・学園運営力の強化(人材育成強化、財務体質強化、寄付金募集強化、中高80周年に向けての準備、など) ・私学法改正に伴う規程類の変更対応(法改正決定後) ・人事制度改定プロジェクトの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長室(経営戦略室)の設置/始動/定期的MTの開催 ・資金運用の提案の検討実施(財務委員会のタイムリーな開催) ・会計士/税理士による事務職員向け会計研修会の開催 ・人事制度改定に向けた情報収集/教職員へのヒアリングやアンケートの実施 ・事務職員によるDX会議の開催

2023年度事業報告(短期大学)

No.	活動計画	No.	施策	2023年度の取組状況
①	キリスト教精神を生かしたキャンパスライフ	1	チャペルアワーの時間を学生が自己の人生を考える時間と位置づけ、聖書を題材としつつも、学生のこれからの人生と関連付けられる要素を充実させていく。	春・秋学期のチャペルアワーに関してのアンケートを今年度も実施。チャペルアワーが有意義と答えた学生は春学期72%、秋学期81.8%、キリスト教の理解が深まったは62.2%、77.3%となっている。最も学びになったと感じている奨励は、今年度も学生チャペルであった。前年度も同様の結果だったので、それを踏まえて今年度は学生チャペルを増やして実施した。
		2	教職員に対しての、建学の精神、キリスト教主義教育に関する研修を実施する。	7月に上毛教会月報を読む会を拡大し、40周年の公開講座として、「平和の使徒新島襄」というタイトルで講演会を行い、そこに教職員も参加した。2月には、新島襄を知るというテーマで、宗教主任が講師となって教職員参加の研修会を行った。
		3	キリスト教行事等の実施に協力する学生組織「ゴスペル」の活動を支援する。	現在、メンバーは13人(1年生6人、2年生7人)で、学生が奨励等を担当する学生チャペルの運営にあたるほか、リトリート、クリスマスキャンドルサービスなどの宗教行事にも携わっている。
		4	日常のキャンパスライフにおいて、キリスト教精神を体感できるようなプログラムを検討し、実施する。	40周年の関係で、グレースホール内に新島短大のこれまでの歩みに関する写真等を展示した。
		5	「いのち」について考える機会を持つ(「いのちの授業」実施など)	宗教主任と、展開方法について相談したが、具体的な方向性を決めることができなかった。
②	入学者の確保	1	連携高校との活動により活性化と新しい連携の形をつくる。	コミュニティ子ども学科に関しては、ふれあい保育はじめ、連携高校との活発な交流活動が行われた。キャリアデザイン学科に関しては、これまであまり交流を実施していなかったが、夏季休暇中に高校生対象のキャリアデザイン講座を実施した。
		2	受験生、高等学校への定期的な情報発信。	月に1回の頻度を目標に資料請求してきた高校生に対して「Nitan Today」というA4判のDMを郵送。高校の進路指導部宛てには、同じく月1回の頻度でFaxNewsを送信している。
		3	SNS、ホームページでの効果的な情報発信。	Instagram、Twitter(X)、Tik Tok、YouTubeなど、SNSによる情報発信は行っているが頻度は少ない。ホームページでは、編入合格速報など、必要な更新は行われているが、タイムリーな更新には至っていない。
		4	エンロールメント・マネジメントの展開とIR活動スタート	入学前からの関係構築ということでは、コミュニティ子ども学科を中心に、頻度高い高大連携活動を行うことができた。IRに関しては入試データの一部しか着手できなかった。卒業後の支援関係では、保育者のリカレント教育プログラム「保育×DX」を企画・実施し、文部科学省の補助事業にも選定された。
		5	魅力ある教育プログラムの構築(実体験と座学の好循環)	昨年度スタートした「ニタンWorkProject」の授業を継続実施。受講者はまだ、それほど多くない状況であるが増加している。「社会人力養成講座」は企業経営者の講話と、それについてのグループ討議、発表を組み合わせた形で実施した。草津温泉観光協会や、みどり市との連携プログラムは今年度も実施した。
		6	教職員Projectの新設	教授会等で募集を告知したが、1件の応募があったのみで、その1件も内容的に合致しなかったため、教職員Projectの新設はならなかった。
		7	教職員の能力開発(体系的なFD・SD活動、業務の効率化による新しい活動の展開)	事務局管理職の月1回の打ち合わせはスタートできたが、FD・SDとも前期は実施できていない状況である。後期に、ルーブリック評価に関するFD、補助金獲得に関するSDを実施した。
		8	全国的なブランディング(就職、編入、公務員の実績と効果的な広報)	月に1回程度の頻度を目標に、就職・編入実績に関する情報を、高校生にはDMで、高校の先生にはFaxNewsという形で発信している。編入に関しては、国公立大合格者が21名となった。公務員は、群馬県1名であった。
③	将来構想の検討	1	短期大学の今後の在り様について、他の事例等も参考に検討していく。	キャリアデザイン学科の募集が、今後も厳しさが続くと考えられるため、定員を減らして新たな学科(フードビジネス学科)に振り替えることについて協議を重ねてきたが、学科届け出の要件が満たせなかったため、キャリアデザイン学科の中に、フードビジネスの分野の学びを専攻として開設していく準備を行った。
		2	四年制大学の実現に向けて、周到な準備を行っていく。	短大の学科増を中心に進めてきたので、四大構想に関して新たな進展はなかった。
		3	将来の展開を見据えた施設・設備計画を立案していく。	施設・設備の整備計画に関しては、建物(本館)検査の結果も踏まえて、修繕計画を策定した。

2023年度事業報告（中学校・高等学校）

No.	活動計画	No.	施策	2023年度の取組状況
①	建学の精神の再確認	1	礼拝の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・イースター礼拝(淡川教会 賢奈津恵牧師 4/24)、特別伝道礼拝(川和教会 平良愛香牧師 10/12)、新島襄百天記念礼拝(同志社大学名誉教授 水谷誠牧師 1/24)を実施。高1対象の特別伝道礼拝分科会(10/10)も実施。 ・朝の礼拝は中学全体、高校全体での礼拝を復活させた。 ・クリスチャン教員、湯浅理事長による礼拝メッセージの機会を増やし、メッセージの多様性を持たせた。
		2	新島襄の生涯と精神を学ぶ機会の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーションでの生徒への建学の精神の説明(4月) ・校長による新入教員研修にて建学の精神の講話(4/19) ・開校記念日に、校長による教員向け「教育の五原則」の講話(5/1) ・安中史跡巡りの実施(コロナ下で未経験の学年もあるため、中学全体で実施 5/12) ・校長による「保護者のためのキリスト教講座」の再開 8回実施(5/26, 6/23, 9/29, 10/16, 11/27, 12/11, 2/2, 2/26)。 ・学校法人同志社と安中市との連携協定締結の支援(7月) ・同志社大学キリスト教文化センター 東京・安中ツアー受け入れ(9/8) ・新島襄百天記念礼拝(1/24)、新島襄百天記念早天祈禱会(1/23) ・建学の精神を伝える機会を増やしてきた。来年度は教員向けの情報発信をより充実させたい。
		3	いのちの教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・新島学園ファームでの農業体験(5/12, 10/13) ・各教科の授業の中での展開 ・フィリピン医療ボランティア講演会(9/13) ・いのちの大切さ助産師出前講座(10/19) ・フィリピン医療ボランティア参加(2/7~2/10 14名参加) ・中学2年生探究旅行(震災遺構を訪ねる 3/13~3/15)
②	生徒の自由を重んじ、生徒の主体性を育てる教育	1	ICT技術を活用してのアクティブラーニング型授業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・大野情報部長が上半期に実施したICT活用アンケートでは、65%の教員がiPad、電子黒板を使用していると回答している。 ・また、同アンケートで生徒も90%がiPad、電子黒板が授業の役に立っていると回答している。ICT技術が授業に浸透してきている。 ・大野情報部長を中心にICTミニ研修を実施し、教員のスキルアップを目指している。 ・授業評価アンケートを試験的に実施した。(10/19~11/2) ・授業評価アンケートの項目を来年度に向けて検討し、来年度は各学期末に行う予定。
		2	探究活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より「探究科」「探究科主任」を新たに置き、「総合的な探究の時間」の構成を改変した。 ・高校については「キリスト教」の時間以外に、高1に週1時間、高3文系に週1時間「総合的な探究の時間」を増やし、より充実を図っている。 ・来年度は高3の探究の時間を理系に週1時間増やし、文系、理系とも週1時間実施し、外部団体との協力を模索していく。
		3	中学を先行しての相互のコミュニケーション能力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・中学1年生より先行的にSGE(構成的グループエンカウンター)をLHRの時間で実施している。今年度は14回実施した。
		4	生徒指導の再検討と生徒会の意見を取り入れたルール作り	<ul style="list-style-type: none"> ・校則の改訂に関しての評議員会(各クラス代表)を1/24に実施した。 ・生徒会役員と教員との校則に関する第1回目の打合せを2/22に実施した。2回目は3/12。今後も、継続的に生徒会との話し合いを進めていく。
③	教職員の活動支援	1	学年団の自主性を尊重した学年運営	<ul style="list-style-type: none"> ・中学2年生は従来の奈良京都の研修旅行ではなく、東北の震災遺構を訪ねる「探究旅行」として独自に実施する。(3/13~3/15) ・高校2年生はインターンシップ(職業体験)のプログラムを学年独自の方針とし企画、実施した(3/6~3/8)
		2	校務分掌の定期的なローテーションの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・中学部長を廃止し、継続的な行事を総務部の担当とした。 ・空席だった総務部長を新たに任命し、生徒会部長、広報部長、情報部長を交替し、校務分掌のローテーションを開始した。来年度は生徒指導部長を変更する予定。 ・今年度、特別支援主任と研修主任を新規に設置した。特別支援主任は自習室の活動を中心に特別支援活動で活躍してくれている。研修主任の働きによって、今年度は充実した新人研修を行うことが出来た。全体の研修に広げていきたい。
		3	部活動改革、働き方改革の推進	<p>今年度は、部活動改革・働き方改革委員会を週1回のペースで開催した。</p> <p>(部活動改革)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の種類分け、クラブチームとの連携に向けて準備を進めている。 ・年度初めに部活動結成を行い、部員の確定をより明確にした。 ・6月及び12月に部活動アンケートを実施した。 <p>(働き方改革)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月に人事制度改定アンケート、9月、12月に働き方アンケートを実施した。 ・BLENDを教務システムとして採用し、生徒の出欠席、成績、生活状況の管理を統一に行えるようになった。出欠席の連絡など、家庭とのコミュニケーションをネット経由で行えるようになった。 ・テスト採点のサポートシステムを導入し、より効率化すべく努力している。 ・教員用ポータルサイト、生徒用ポータルサイトを導入し、朝会、職員会議、運営委員会の大幅時間短縮を実現できた。また、教員間、教員生徒間の情報の伝達をより効率的に変更している。 <p>働き方改革に関しては、①職員棟20時施錠、②出勤の時間管理の開始、③運営委員会の授業時間内実施、④行事の整理の検討、を次年度実施する。</p>
④	構造改革の推進	1	構造改革プロジェクトの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から33回の会議を行い、構造改革プロジェクトの素案を作成した。 ・中学の定員を一学年200名から170名に変更することを5月の理事会に提案、承認していただき、5月末に県に申請。私学審議会を経て7月21日に県より認可された。 ・8月29日の職員会議でプロジェクトの全体の議論、定員変更の経緯と結果について報告し共有した。 ・新島1スクール、寮の再開については理事長室と協力して進めていく。 ・高校定員増についても実現に向けて動き始める。
		2	入試制度の見直しと改善	<ul style="list-style-type: none"> ・構造改革プロジェクトの小委員会として、入試制度の改革を広報部長を中心に検討し、今年度の開始に向けて準備してきた。結果として大きな変更は行わなかったが、中学入試のAO入試を総合型選抜と名前を変え、出願条件も変更した。 ・総合型選抜については英語面接を廃止し、日本語でのコミュニケーション力を重視するように変更した。 ・Web出願をより強化し、出願のみならず、学校説明会、入試相談会の申込み、及び合格発表をWeb上で行うようにした。中学入試については出願書類はすべて郵送とした。高校は来校しての出願と郵送による出願を併設する。 ・合格査定の際には危険が大きいので大幅な変更は行わなかったが、より基準を明確にするようにした。説明会から面接の出来を重視することを繰り返し説明し、査定においても面接重視の査定を行うことが出来た。 ・面接の採点基準も統一を図り、バラツキを例年より少なくすることが出来た。
		3	積極的な広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・HPを今年度リニューアルし、学校の様々な活動についてリアルタイムに掲載できるようになった。 ・入試の情報提供も殆どがHP上で行えるようになった。 ・広報部長の交替によって、今までの広報活動の改良すべき点も明確になってきた。 ・教員全員での学校訪問を実施することができた。来年度は実施時期を前倒しし、より効果的な訪問が出来るようにする。